

10月1日午後3時発表の予定につき
それまで取り扱い注意

2019年度デミング賞各賞の受賞者について

2019年10月1日

当連盟内に置かれているデミング賞委員会(委員長 中西 宏明)は10月1日(火)14時から経団連会館(東京・大手町)において委員会を開催し、2019年度デミング賞各賞の受賞者を決定しましたので、ご連絡いたします。

一般財団法人 日本科学技術連盟
理事長 佐々木 眞一

本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

デミング賞委員会

(一般財団法人 日本科学技術連盟内)

なかしま のりひこ
セクレタリー：中島 宣彦

たかとり けん はら なおこ
事務局：高取 健、原 奈穂子

〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 4階
TEL：03-5990-5852(デミング賞委員会事務局)
携 帯：080-8909-2552(10/1、10/2の連絡先)
FAX：03-3344-3022
E-MAIL：demingprize@juse.or.jp
URL：<http://www.juse.or.jp/deming/> (日)
http://www.juse.or.jp/deming_en/ (英)

2019年度(令和元年度) デミング賞 各賞受賞者

2019年度(令和元年度)のデミング賞各賞の審査は、デミング賞委員会の各委員会において本年5月から9月にかけて行われてまいりましたが、本年10月1日開催のデミング賞委員会において以下のとおり受賞者が決定いたしました。

授賞式は、11月6日(水)17時20分から東京・大手町の経団連会館において行われます。

授賞式に引き続き、18時35分から同会館において受賞記念祝賀会が行われます。

また、受賞者による受賞報告講演会は、授賞式に先立って、11月6日(水)12時15分から同会場で行われます。

受賞者

1. デミング賞大賞

トヨタ自動車九州株式会社

ながた おさむ
(永田 理 氏、代表取締役社長)

2. デミング賞本賞

ながた やすし
永田 靖 氏 早稲田大学 創造理工学部経営システム工学科 教授
(1957年生、62歳)

3. デミング賞普及・推進功労賞(海外)

ヴェヌ スリニヴァサン
Venu Srinivasan 氏
Chairman & Managing Director,
TVS Motor Company Limited & Sundaram-Clayton Limited
(1952年生、67歳)

4. デミング賞 (受賞組織名五十音順)

エルジー イクイップメンツ リミテッド
Elgi Equipments Limited

ジャイラム バラダラーシ
(Mr. Jairam Varadaraj, Managing Director)

シロキ工業株式会社

おかべ ひとし
(岡部 均 氏、代表取締役社長)

シーメンス ガメサ リニューアブル パワー プライベート リミテッド
Siemens Gamesa Renewable Power Private Limited,
マニュファクチュアリング ユニッツ
Manufacturing Units

ナラシマン ラヴィチャンドラン
(Mr. Narasimman Ravichandran, Executive Vice President)

ジェイエスタブリュー スチール リミテッド セイラム ワークス
J S W Steel Limited, Salem Works

ナラシンハ スーリヤ プラカシュ ラオ ボリセティ
(Mr. Narasimha Surya Prakash Rao Bolisetty, Plant Head)

ラーセン アンド トウブロ リミテッド エレクトリカル アンド オートメーション アイシー
Larsen & Toubro Limited, Electrical & Automation I C,
プロダクト エスピーシー エレクトリカル スタンダード プロダクツ エスピーユー ニュー プロダクト ディベロップメント
Product SBG, Electrical Standard Products SBU, New Product Development

ギリッシュ ティワリ
(Mr. Girish Tiwari, Vice President, Head-Electrical Standard Products SBU)

受賞者参考事項

1. 2019 年度デミング賞大賞

トヨタ自動車九州株式会社

代表者名：永田 理 氏（代表取締役社長）
所在地：〒823-0015 福岡県宮若市上有木 1 番地
T E L：0949-34-2358
事業内容：自動車の生産
売上高：約 12,880 億円(2018 年度)
従業員数：約 11,200 名(2019 年 4 月)

[受賞理由]

同社は、トヨタ自動車株式会社による 100%出資会社であり、主要製品は、ラグジュアリーブランドであるレクサスの FF 車両である。設立は 1991 年、2019 年 4 月の従業員数は約 11,200 名、2018 年度の売上高は約 1 兆 2,880 億円である。

設立時の役割である生産に加え、生産技術、開発も担うようになる中、TQM 推進により経営上の効果を上げ、2016 年にデミング賞を受賞している。自動車業界では 100 年に一度といわれる変革期にある近年、同社の経営環境もめまぐるしく変化している。強みを生かし、開発も行うレクサスメーカーへ進化するべく、世界のお手本工場になることと車両開発力を高めることを柱とするビジョン 2030 を策定し、この達成に向けデミング賞受賞後も TQM を推進している。同社は、世界のお手本工場たる品質、生産性、環境などの目標を設定し、様々な活動に展開している。また、経営環境の変化に柔軟に対応するために組織として必要な能力を明確化し、それを組織全体に展開、実施している。

これらの効果として、デミング賞受賞時と比べ、様々な指標が継続的に改善されている。加えて、モデルチェンジなどでの開発効率が向上するなど、車両開発力も向上し、ビジョン 2030 の達成に向け、着実に効果を上げている。

2. 2019 年度デミング賞本賞

ながた やすし
永田 靖 氏 早稲田大学 創造理工学部経営システム工学科 教授

(1957年生、62歳)

[受賞理由]

永田靖氏は、1985年大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程を修了(工学博士)後、熊本大学工学部講師、岡山大学経済学部助教授・教授を経て、1999年早稲田大学理工学部教授、2007年改組により早稲田大学創造理工学部教授として現在に至っている。研究・教育に従事し、学科長・専攻長として早稲田大学の運営に尽力すると共に、応用統計学会会長、日本品質管理学会理事、両学会誌の編集委員長、デミング賞審査委員会副委員長などの要職を通じて TQM の発展と普及に貢献してきた。

永田氏は、統計科学の分野で学術論文 67 件、書籍 22 件を刊行し、日経品質管理文献賞 7 件、日本品質管理学会最優秀論文賞 2 件をはじめ、多くの学会賞を受賞している。著書『統計的多重比較法の基礎』、『サンプルサイズの決め方』、『工程能力指数』は、自身の研究成果を含めたオリジナルな専門書である。また、『入門統計解析法』、『入門実験計画法』、『多変量解析法入門』は統計的品質管理のバイブルとして広く読まれている。さらに、産学連携研究を推進し、『開発・設計における“Qの確保”』などの書籍を発信した。これらの成果は TQM の発展と普及に大きく貢献してきた。

3. 2019 年度デミング賞普及・推進功労賞(海外)

ヴェヌ スリニヴァサン

Venu Srinivasan 氏

Chairman & Managing Director,

TVS Motor Company Limited & Sundaram-Clayton Limited

(1952年生、67歳)

[受賞理由]

ヴェヌ スリニヴァサン氏は、1974年インドのギンディ工科大学を卒業、1977年米パデュー大学の経営学修士を取得した。1977年 Sundaram-Clayton(SCL)社の MD に就任し、2012年から会長を、また 2000年に TVS Motor 社の MD に、2002年から会長を兼務。インドは 1980年代後半、差し迫る経済の自由化に対処する必要から、氏は日本的 TQM を導入した。

以後 30年に亘り、TQM 実践のパイオニア経営者として、顕著な業績を挙げ、SCL 社 Brake 事業部がインド初のデミング賞(D賞、1998)とデミング賞大賞(DG賞、2002)を受賞、TVS Motor 社を含む関連企業グループ通算で D賞 6、DG賞 2 の受賞組織を生み出した。更に、インド工業連盟(CII)プレジデント等の要職を通じて TQM をインドの工業界に普及・推進し、今日までインドから 32 組織が D賞を、8 組織が DG賞を受賞する礎を築いた。また、TQM の国際的普及に対する貢献及び貧困層農民への TQM を活用した貢献活動なども偉大である。

4. 2019 年度デミング賞 (受賞組織名五十音順)

エルジー イクイップメンツ リミテッド

Elgi Equipments Limited(インド)

エルジー イクイップメンツ株式会社

代表者名：ジャイラム バラダラジャ 氏 (マネージング ディレクター)

Dr. Jairam Varadaraj (Managing Director)

所在地：Trichy Road, Singanallur, Coimbatore , 641005,
Tamil Nadu, INDIA

T E L : +91-422-2589555

事業内容：コンプレッサーの製造

売上高：186 億インドルピー(285 億円)

従業員数：2,026 名

[受賞理由]

同社は 1960 年に創業して、現在、各種タイプのコンプレッサーおよびその付属品の開発・製造を行っている。従業員数は 2,026 名、売上高は約 186 億ルピー(約 285 億円)である。

1991 年以降のインド市場の自由化による経営環境の変化に対応すべく 2014 年に、2027 年までに業界世界第 2 位の収益を目指す中期経営計画としての CK2 プロジェクトを掲げ、トップの強いリーダーシップの下、TQM をそのツールとして全員参加でそれを達成しようとしている。同社の TQM の特徴は、第 1 に、業界世界第 2 位実現のために同社の実情に合わせた方針管理にある。第 2 に、現場職員の小集団活動からスタッフによる部門横断活動など多様な改善活動の仕組みとそのための人材育成がある。第 3 に、拡販に向けた営業活動の標準化プロジェクトや IT を駆使した各種仕組みの創設と推進である。これらの特徴を有する TQM によって、小型化、軽量化、騒音、ライフサイクルコストの低減などの既存製品の性能向上だけでなく、競合他社に真似できない新製品の市場投入により、2014-15 年度から 2018-19 年度に売上高を 1.41 倍と大幅に伸ばすと共に、今後一層の収益増大が期待できる。

シロキ工業株式会社

代表者名：岡部 均 氏 (代表取締役社長)

所在地：〒442-8501 愛知県豊川市千両町下野市場 35-1

T E L : 0533-93-1203

事業内容：自動車用内装機能部品・車体外装部品の製造販売

売上高：連結売上高 2,907 億円

従業員数：連結従業員数 6,029 名

[受賞理由]

同社は 1946 年創業の自動車外装・内装機能部品のメーカーで、2016 年アイシン精機株式会社と経営統合した。資本金 74.6 億円、連結売上高 2,907 億

円、連結従業員数 6,029 人、子会社を含む国内 7 工場、海外 8 工場を擁するグローバル企業である。同社は、2012 年に TQM を導入後、経営統合を機に策定された「新生シロキビジョン 2021」の達成を目指して TQM の強化を図った。その主な特徴は、(1)経営統合に伴う諸問題の効果的/効率的解決と統合メリットの具現化、(2)組織横断型のシステム商品開発による提案型ビジネスの展開、(3)属人的活動から仕組みと標準化による活動への組織文化の変革、などである。この結果、経営統合に伴う諸問題が解決され、そのメリットを活かすことができる事業体へと変革が進んでいる。特に、経営統合に伴う収益の悪化が回復基調を示すとともに、中期目標もほぼその達成が見通せる状況にある。そして、TQM 活用による経営体質の改善に加えて今後の更なる事業の発展が期待される。

シ ー メ ン ス ガ メ サ リ ニ ュ ー ア ブ ル パ ワ ー プ ラ イ ベ ー ト リ ミ テ ッ ド
Siemens Gamesa Renewable Power Private Limited,
マ ニ ュ フ ァ ク チ ャ リ ン グ ユ ニ ッ ト
Manufacturing Unit (インド)

シーメンス ガメサ リニューアブル パワー株式会社 製造事業部

代表者名：ナラシマン ラヴィチャンドラン 氏
(エグゼクティブ バイス プレジデント)
Mr. Narasimman Ravichandran (Executive Vice President)
所在地：The Futura Tech Park, Block B, 8th Floor, No. 334,
Rajiv Gandhi Salai, Sholinganallur, Chennai, 600 119, INDIA
T E L : +91-99-400-49085
事業内容：風力発電機の製造
売上高：約 43 億 2,100 万ルピー (約 64 億 8,150 万円) (全社での売上高)
従業員数：1,027 名

[受賞理由]

同組織は、インドのチェンナイに 2009 年に設立された風力発電機メーカーの製造事業部である。従業員数は 1,027 名、売上高は約 43 億 2,100 万ルピー(約 64 億 8,150 万円) (全社での売上高)である。

インド政府や社会からの環境への要望、固定価格買取制度から競争入札制度へのシフト、競合企業の増加、価格競争など、年々激化している経営環境において、競争力強化のため同組織は 2015 年に TQM を導入した。部門横断型アプローチと製品化レビューに基づく新製品製造プロセスの開発、現場とスタッフが連動した全員参加の日常管理の徹底、リードタイムが長い少量生産におけるラインバランスを考慮した効率的な生産などの特徴ある活動を展開している。

その結果、量産リードタイムの約 30%の縮小、再作業時間の約 60%の縮小など、社会環境と技術環境の変化に対応する効率的な生産能力を実現している。

ジェイエスタブリュ スチール リミテッド セイラム ワークス

J S W Steel Limited, Salem Works (インド)

ジェイエスタブリュ スチール株式会社 セイラム製鉄所

代表者名：ナラシンハ スーリヤ プラカシュ ラオ ボリセティ氏 (プラントヘッド)

Mr. Narasimha Surya Prakash Rao Bolisetty (Plant Head)

所在地：Pottaneri PO, Mecheri, Mettur Taluk, Salem 636453,
Tamilnadu, INDIA

T E L : +91 9994895146

事業内容：製鉄(自動車部品用・非自動車部品用特殊鋼)

売上高：491億2,000万ルピー(約730億円)

従業員数：従業員数は1,709名

[受賞理由]

同組織は、1991年に設立された自動車部品用・非自動車部品用特殊鋼を製造するインド最大の工場である。事業年度2019の売上高は491億2,000万ルピー(約730億円)、従業員数は1,709名である。

同組織は、2004年度、普通鋼からより付加価値の高い特殊鋼の製造へと転換した。競合との激しい競争に勝ち抜くためには、品質・コスト・納期に対する顧客からの厳しい要求に応える必要があった。このような中、経営目標・戦略を達成するための手段として2014年度にTQMを導入した。

多様な改善活動によって全員参加を実現するとともに、ステークホルダーとの共同活動を推進することにより、新製品開発に成功している。また、市場分析に基づいて経営目標・戦略を策定し、新たな事業領域に取り組んでいる。さらに、SDGs経営としてのCSR活動を中長期的な視点で推進している。

その結果、品質・コスト・納期やオペレーションの指標の多くが改善され、経営目標について高い効果をあげるとともに組織能力を強化している。

ラーセン アンド トゥブロー リミテッド

Larsen & Toubro Limited,

エレクトリカル アンド オートメーション アイシー

Electrical & Automation IC,

プロダクト エスピージー エレクトリカル スタンダード プロダクツ エスピーユー ニュー

Product SBG, Electrical Standard Products SBU, New

プロダクト ディベロップメント

Product Development (インド)

ラーセン アンド トゥブロー株式会社、電動・自動化独立カンパニー、
製品戦略ビジネスグループ、電動規格製品戦略部門・新製品開発部門

代表者名：ギリッシュ ティワリ 氏 (バイス プレジデント、ヘッド エレクトリカル スタンダード プロダクツ エスピーユー)

Mr. Girish Tiwari

(Vice President, Head - Electrical Standard Products SBU)

所在地：L&T Business Park, Tower 'B', Third Floor, Saki-Vihar Road,
Powai, Mumbai - 400072, INDIA

T E L : +91-98-2210-8366

事業内容：産業用配電盤、自動制御システム、医療系システムなどの電子製品
売上高：約 250.8 億ルピー(約 378 億円)
従業員数：4,293 名

[受賞理由]

同組織は、Larsen & Toubro 社の事業会社の一つである Electrical & Automation IC 内の 2 つの戦略的事業体である Electrical Standard Products と New Product Development である。同組織は、インド国内において低電圧スイッチギア製品のシェア No.1 の地位にあり、総売上高は約 250.8 億ルピー(約 378 億円)、従業員数は 4,293 名である。

同組織は、多国籍企業のインド国内市場への参入による競争激化などの環境変化に対応するために、1992 年に導入していた TQM の取り組みを強化することにより、組織能力の向上を目指している。5 年間の戦略目標に基づき、年次ベースで方針が的確に展開されている。さらに、新製品開発などの戦略的目標の達成のための CFT の活用と体系化、日常管理の徹底、QC 手法の活用、CFT や QCC 活動を通じたスタッフ・従業員のシステムアプローチ指向の浸透および問題解決能力の獲得を行っている。

その結果、顧客満足度および品質に関する指標、そして売上や利益などの経営成果指標が向上し、目標を達成している。

**2019年度(令和元年度)
日経品質管理文献賞 受賞者**

デミング賞委員会は、本年10月1日開催のデミング賞委員会において2019年度日経品質管理文献賞の受賞者を下記のとおり決定いたしました。

授賞式は、11月6日(水)17時20分から東京・大手町の経団連会館においてデミング賞授賞式とあわせて行われます。

受賞文献 3件 (受賞文献名五十音順)

「ISO 運用の“大誤解”を斬る！

－マネジメントシステムを最強ツールとするための考え方改革－

いづか よしのり かねこ まさあき ひらばやし よしと
飯塚 悦功、金子 雅明、平林 良人 編著

2018年9月：株式会社日科技連出版社

「開発者のための市場分析技術 －顧客を洞察するための分析アプローチ－

まるやま かずひこ すぎうら まさあき
丸山 一彦 編著、杉浦 正明 著

2018年12月：株式会社日科技連出版社

「J S Q C選書 29

企業の持続的発展を支える人材育成 －品質を核にする教育の実践－

一般社団法人日本品質管理学会監修

むらかわ けんじ
村川 賢司 著

2019年1月：一般財団法人日本規格協会

デミング賞・日経品質管理文献賞の説明資料

I. デミング賞とは

1. 「デミング賞」は、統計的品質管理の工業への応用において終戦後、たびたび指導のため来日された米国人故 W.E.デミング博士(1900～1993)の友情と業績を記念し、わが国の品質管理の一層の発展を図るため、日本科学技術連盟によって1951年(昭和26年)に設けられたものであり、今年で創設69年を迎えました。

また、「デミング賞大賞」は、日本科学技術連盟が、1969年(昭和44年)10月東京で開催した世界初の品質管理国際会議を記念し、その意義を永く将来にわたって維持高揚するとともに品質管理の一層の発展をはかるために創設されたものであります。

企業・組織を対象とする「デミング賞」「デミング賞大賞」は、応募した組織について審査が行われ、授賞を決定いたします。

デミング賞委員会の経費は、一般財団法人日本科学技術連盟によって負担されています。

2. デミング賞の種類

「デミング賞本賞」、「デミング賞普及・推進功労賞(海外)」、「デミング賞」、「デミング賞大賞」の4つがあります。

3. 授賞の対象

賞の種類	賞の概要	対象
(1) デミング賞本賞	1) 総合的品質管理(Total Quality Management、以下TQMという)の研究に関し優れた業績のあった者。 2) TQMの普及に関し優れた業績のあった者。	個人
(2) デミング賞 普及・推進功労賞 (海外)	TQMの普及・推進に関し、優れた業績のあった者。 ただし、候補者は、主たる活動が海外に限定される者に限られる。(原則として3～5年ごとに選考が行われる)	個人 (海外)
(3) デミング賞	経営理念、業種、業態、規模、経営環境にふさわしいTQMが効果的に実施されている応募組織に授与。(年度賞)	企業・組織
(4) デミング賞大賞	デミング賞を受賞した組織のうち、受賞後3年以上を経過しており、受賞後もTQMにおいて優れた成果をあげた応募組織に授与。(年度賞)	企業・組織

II. 日経品質管理文献賞とは

日経品質管理文献賞は、「TQM」またはそれに利用される統計的手法等の研究に関する文献(数値表やソフトウェアをとまなう文献を含む)で、品質管理の進歩、発展に貢献すると認められる優秀なものを表彰するため、日本経済新聞社により、1954年に創設されました。この賞の審査はデミング賞委員会において行われ、デミング賞行事の一環として毎年賞の授与が行われています。

推薦または応募の資格

日経品質管理文献賞は、日本語で書かれた文献、または、日本を主たる活動の場としている著者の文献で、次に掲げる文献の作成者に授与されます。

- a) 「TQM」またはそれに利用される統計的手法等の研究に関する文献(数値表やソフトウェアをとまなう文献を含む)で、品質管理の進歩、発展に貢献すると認められるものを対象とします。
- b) 対象文献は、原則として、前年の7月1日から当年の6月30日までに公表されたものです。

デミング賞/デミング賞大賞の累積受賞者(組織)数

1. デミング賞本賞

[1951年(昭和26年)以降2019年(令和元年)までの受賞者数] 82名

2. デミング賞普及・推進功労賞(海外)

[2009年(平成21年)以降2019年(令和元年)までの受賞者数] 4名

3. デミング賞

[1951年(昭和26年)以降2019年(令和元年)までの受賞組織数] 延257組織

(a) デミング賞

34組織(うち海外21組織)

※2012年度の賞の名称変更以降の数

(b) デミング賞実施賞中小企業賞(1994年まで)38組織

(c) デミング賞実施賞事業部賞(1994年まで) 5社5事業部

※1995年からデミング賞実施賞中小企業賞およびデミング賞実施賞事業部賞という名称は廃止され、デミング賞実施賞に一本化されました。

(d) デミング賞事業所表彰(2009年まで) 16社20事業所(うち海外3社3事業所)

※2010年からデミング賞事業所表彰はデミング賞実施賞に一本化されました。

(e) デミング賞実施賞(2011年まで) 延160組織(うち海外35組織)

※2012年から「デミング賞実施賞」を「デミング賞」に名称変更しました。

4. デミング賞大賞

[1970年(昭和45年)以降2019年(令和元年)までの受賞組織数] 延31組織

(再度の受賞組織2組織、海外11組織を含む)

※2012年から「日本品質管理賞」を「デミング賞大賞」に名称変更しました。

5. 日経品質管理文献賞

[1954年(昭和29年)以降2019年(令和元年)までの受賞件数] 246文献